

の高地に分布しているが、日本産と全く同一種であるかどうかは疑問な産地もあり、今後検討したい。

Tab. 1 の材料を使用して 染色体数を観察し、胞子母細胞で  $n=45$ 、体細胞で  $2n=90$  (Fig. 2, B) を得た。さらに中央ネパールで採集したフユノハナワラビ (日本産と同一種にするには疑問がある) でも  $n=45$  を数えた (Fig. 2, A)。今回の体細胞によるこの種の染色体数の報告は初めてと思うが、観察は中藤成美氏 (都立新宿高校) によるものであり、同氏に謝意を表する次第である。

A distributional map (Fig. 1) of *Sceptridium ternatum* var. *ternatum* in Japan is presented. Stars in Fig. 1 indicate the localities from which the materials for cytological studies were obtained. In Hokkaido and Tohoku district the plant has not often been found, and in central Honshu it rarely occurs at altitudes 500–1500 m. The gametic chromosome number in a spore mother cell at meiosis was  $n=45$ . It is the same count as that of the material from central Nepal (Fig. 2, A). The somatic one from root apex was  $2n=90$  (Fig. 2, B).

(東邦大学 薬学部)

#### ○高等植物分布資料 (119) Materials for the distribution of vascular plants in Japan (119)

○サカコザクラ *Androsace filiformis* Retz. 黒石市厚目内の厚目内小中学校構内 (海拔 400 m) の砂地に 3 年ほど前から出現したもので、朝鮮半島、中国東北部、シベリヤ、ヨーロッパに産するサクラソウ科の *Androsace filiformis* Retz. であった。1986 年 9 月 6 日現在、ゼニゴケと重なり合うようにして幼植物の密生したパッチが、校舎のまわりの軒の雨垂れの落ちる場所近くの数ヶ所にみられ、花や蕾をつけているものもあった。ロゼットで越冬するものと思われる。渡り鳥によってもたらされたものであろうが、同地は旧満洲引揚者の開拓地なので、衣服に付着して来たのではないかとする説もある。発見者は同校の村岡稔氏で、はじめは生徒がもたらしたものである。このことが地方紙に報道されたところ、青森市石江の加藤よし子氏、南津軽郡尾上町の田辺定雄氏からも、この植物があるという知らせがあった。この地方ではまだ産地がふえる可能性がある。1984 年中国東北地方を調査した国立科学博物館の門田裕一氏によれば、本種は黒竜江省寧安県の山岳地帯、高度 500–600 m には普通な植物で、林道わきの裸地的な凹所で、水が常に滲みでているような場所に点々と生育しており、地表が乾いている所は好まず、密生することはなかったという。

(国立科学博物館 金井弘夫 Hiroo KANAI・青森第三養護学校 原子一男 Kazuo HARAKO)